

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月18日(火)

会場:甲奴健康づくりセンター「ゆげんき」

参加者数:34人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>林業について、普通丸太は底値であり、素材丸太は価格が下がっている。市場に出すのに、積み替えなければ輸送コストが出ない。林業関連等の道の拡幅について、予算はどうなっているのか。</p>	<p>自伐林業の課題として、林道の整備が挙げられるが、今年度予算については改めて報告する。林道の整備は重要であると認識している。伐採した山から災害が起こる例も市内で起きている。山にしっかりと手を入れ、自然を守ることによって、持続可能な地域にしていく取組が必要である。林業は三次市の大きな資源であり、今までの取組を検証した上で、検討していく。</p>	
<p>三次中央病院の病院食は、口に合わない。改善できないか。</p>	<p>市立三次中央病院の病院食は、塩分を控え、カロリー計算をしており、病院食にふさわしいものが提供されていると思う。ご意見を病院に伝え、参考にさせていただく。</p>	
<p>夜間に運転すると、車線が消えており、車幅がわかりにくいので、中央線だけでも明確に引いてほしい。道路の維持管理のため車が巡回しておられるが、線がないことにより、交通事故が生じてしまう。</p>	<p>三次市では、市道と県道を一括して維持管理している。市道は、約3,600路線、総延長1,800kmある。歩行者の安全確保や、安全な運転につながるように、線がない箇所や危険な箇所などは、優先順位をつけながら、計画的な維持管理を予算内で行っている。</p>	
<p>一時保育から通常保育に変わらないのはなぜか。保健師との連携ができていないのではないか。</p>	<p>保育所の一時預かりについては、個別事案であるので、実態を確認させていただきたい。何らかの理由があって、一時保育になっておられると思う。</p>	
<p>三次市体育協会甲奴支部の予算は、2022年度で58万4,000円であったが、本部の来年度計画によると、5万円の事務費で、19地区で計50万円の予算にしようとしている。これでは、甲奴支部を運営することが困難である。また、支部をなくして、自治組織連合会に分散させようという案が出ている。市担当課にもお願いしたが、別組織であり指導ができないと言われた。三次市体育協会の予算のほとんどが交付金で賄われていることから、市がもっと指導してもいいのではないか。</p>	<p>体育協会内で具体的な事業が決められ、それぞれの地域で色々な事業が行われていると認識している。来年度の体育協会の事業予定や予算、支部の活動状況などについて確認する。</p>	
<p>子どもたちの命を守ることが重要であり、危険な通学路対策について、校長先生をはじめ、支所や市担当課、地域を挙げて取り組んでいる。しかし、県内の通学路のうち、52%しか対策ができていないという報道があった。三次市全体における危険箇所及び対策の進捗状況について教えていただきたい。また、今後の対策をどのようにされるのか。</p>	<p>地域の皆さんには、子どもたちの安全のため、保護者と一緒に、見守りをしていただいている。「三次市通学路交通安全プログラム」を策定し、毎年、学校、保護者や地域の方と、危険箇所の確認作業や改修要望について集約している。集約後、関係部署や警察などの関係機関と連携しながら、優先付けをして、改修している。これからも取組を進めていく。</p>	

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月18日(火)

会場:甲奴健康づくりセンター「ゆげんき」

参加者数:34人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>マイナンバーカードについて、今後、保険証や運転免許証と統合するという報道がある。市の進捗状況と、今後の取組について教えてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカードの加入率は、全国平均と同じくらいであり、50%程度となっている。マイナンバーカードの普及は重要であり、将来的に、速やかな行政手続きにつながると考えている。例えば、マイナンバーカードを用いて、コロナに関する給付金事業について、速やかに給付金を口座に振り込むことや、タイムリーに市民生活を支援することができる。今後、健康保険証や免許証も統一されるなど、マイナンバーカードを持っていないことによる、日常生活の中で不便になるおそれもあることから、引き続き、支所やコミュニティセンターなどで手続きができるように努める。 ・国の方針が目まぐるしく変化していることから、わかりにくい部分や理解しにくい部分については、市民の皆さんに丁寧に説明するとともに、広報紙やホームページなどで発信していく。横文字などの普段聞きなれない言葉も多いことから、わかりやすい説明を心掛ける。 ・保険証の件は、国から方針が示されたものであり、今後の状況を注視する。コロナワクチンの接種証明書は、スマートフォンアプリで提供できるようになっているが、これは、市町村や医療機関が接種データを国のデータベースに登録し、接種記録を共有することで可能となっている。デジタル化の時代に合わせて、今後も便利なサービスの提供を模索していく。 	
<p>マイナンバーカードの申請手続きについて、一度でできる方法を教えてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支所などにおいても、マイナンバーカード申請の出張サービスを行っている。その際に、写真撮影をするのと同時に、専門職員が、優しく丁寧に、申請手続きの支援をしている。 ・支所では、その場で写真を撮り、マイナンバーカードの申請サポートを行う。また、毎日相談を受け付けているので、お問い合わせいただきたい。 	
<p>教育長や教育委員会の皆さんが、市内小学校の現状について、地元説明に来られたが、統合ありきのように思う。小童小学校の授業参観をした際、一緒にいた大学教授が、子どもたちが生き生きと生きていると言われていた。地元と模索しながら、統廃合を進めてほしい。いつ頃までにどのような状態であれば、統合と判断されるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の規模及び配置の適正化については、昨年度、学識経験者などから構成される検討委員会をつくり、子どもが身につけるべき力を育む環境をどのように整えていくのか、答申を受けた。これを踏まえて、市の基本方針を示したところである。学校の適正化について考える時期の目安を、小学校については、全学年が複式学級となった時点、あるいは2つの学年で児童数がゼロとなった時点。そして、中学校は、複式学級ができるような規模となった時点、あるいは1つの学年で生徒数がゼロとなった時点を目安に考えたらどうかということである。教育委員会の中で協議を重ね、目安としてきちんと決めた上で、保護者や地元の方と協議を進めていくということを決めた。目安は、協議を始めるということであり、統合ありきではない。今年度は、この目安となった学校が市内に5校ある。甲奴地区では小童小学校が該当する。今年の5月と8月に、保護者や地域の代表の方に対して、教育委員会で進めていこうとしている基本的な適正化の方針について説明した。子どもにとって本当に必要な環境とは何か、豊かな教育環境はどうあるべきか、今後の状況を踏まえながら、一緒に意見交換をさせていただきたい。 ・地域では、色々な力が結集して、子どもたちを守り育てていただいていると思っている。双方の納得のもとで、これからどのような取組をしていくのか協議するまでは、一方的に、短時間の中で結論を出すことは考えていない。各学校では、一生懸命、教育活動をしており、子どもの状況に関心を持っていただき、あるいはさらに関わっていただくために、コミュニティスクールを進めさせていただいている。社会総ぐるみで、しっかり自立をして、たくましく生きていく子どもを育てる取組につなげさせていただきたい。 	

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月18日(火)

会場:甲奴健康づくりセンター「ゆげんき」

参加者数:34人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>地域と行政がともに一生懸命、未来を考えていくべきであるが、10年後に担い手となる若い世代を交えて話をさせていただきたい。以前、開催された、地域自慢大会という行事では、地元の高校生が主体的に、地元をしっかり見て、地元の人から話を聞いて、地域の素晴らしいところを発表されており、私自身が感動した。地域で暮らして育っている子どもたちを大切に、その子どもたちが地域振興やまちづくりにとって参画できるようにしてほしい。三次市に大学はないが、修道大学等で地域政策論などを学んでいる学生が地域に学びにきている。大学生の受け入れを行い、10年後の三次の姿をともに考えて、行動していければ、元気な三次市になるのではないかと。10年後の担い手が、いきいきとワクワクして暮らす三次市であれば、小さな子どもたちがその姿を見て、ここで楽しく暮らしていけるという期待を持つと思う。若い世代がいきいきと暮らしている地域は、上の世代も頼もしく感じ、安心して暮らしていけるのではないかと。</p>	<p>本市では、10年後を担う若者を交えて話し合うことを大事にしている。例えば、現在、三次の魅力を発信するなどのシティプロモーションを展開しているが、高校生の皆さんから意見をいただいている。また、芸備線に関しても、通学以外の方法について意見を聞いている。さらに、現在、10年後の三次市のありたい姿を想像しながら、総合計画を策定しているが、高校生にもワークショップ等で意見をいただいている。10年後どうありたいかという前向きな思いを持って、高校生に意見をいただくことは重要であると思っている。今、学校では、総合学習の時間を設け、地域の取組をしていただいている。子どもたちや、学校関係者の皆さん、地域の皆さんと一緒になって、今後のありたい姿を想像する中で、本市にしかできないことを行い、楽しいまちと周りの皆さんから言っていただけのようにしていきたい。</p>	
<p>定住関係の予算が削減されている。空き家の調査を行っており、いい状態の物件については空き家バンク登録ができるが、次第に、いい状態の物件がなくなっている。また、いい物件を手放す所有者は少ない一方で、状態の悪い物件はどんどん出てきている。持ち主や定住される方が、空き家を改装するにも、お金がかかる。空き地バンクなどのように、土地だけでも使えるようにして、状態の悪い物件を救い上げる方法はないか。</p>	<p>移住する側だけではなく、受け入れる側においても難しい面があると感じている。定住対策や空き家対策を講じながら、関係人口を増やすための取組を重点的に行っている。色々な機会を通じて、本市を知ってもらおうとともに、本市と関わりのある人とのつながりを構築している。先般、東京・銀座にある広島県アンテナショップ「TAU」において、本市のふるさと産品や加工品などをPRするとともに、定住フェアを東京・有楽町で開催した。東京には、移住を考えている人が多い。地道な積み重ねが定住につながるとしており、現在、職員も様々な仕掛けをしている。移住の相談件数は確実に増えており、地道に取り組んでいく。定住対策だけではなく、それぞれの地域の良さを生かした取組を展開していきたい。集落支援員の皆さんにも、引き続きご協力をいただきたい。</p>	
<p>宇賀の市営住宅について、駐車場が不法占拠されている。市営住宅の見学に来られても、この状況を見て諦める方もいる。これでは、宇賀地区の住民が増えない。問題を解決して、募集を再開してほしい。</p>	<p>・昭和61年築であり、かなり老朽化しているため、今後どのように活用していくかの検討が必要である。市営住宅を必要とされている方に入っていただくことを意識しながら、できるだけ新しいところをうまく使っていく。不法占拠を確認し、改善できるように努めていく。 ・宇賀住宅では、不適切な利用があることは認識している。関係部署と連携しながら、改善に努める。</p>	